

# 自民県政クラブ



自民県政  
クラブ会長  
染谷 清

新年明けましておめでと  
うございます。

皆様には、ご一家おそろ  
いにて、希望に満ちた初春  
をお迎えのことと心からお  
喜び申し上げます。

さて、昨年のわが県の出  
来事を振り返ってみます  
と、アテネオリンピックで  
の本県勢のめざましい活躍  
やNHK県域地上デジタル  
放送の開始などがあつた反  
面、殺人事件や振り込め詐

欺等の多発、また八郷町、  
常北町の首長逮捕などの暗  
いニュースもありました。

自民県政クラブでは、代  
表質問や一般質問、常任委  
員会質疑等を通じて、ある  
いは日常活動により、さま  
ざまな県政課題に真摯に取  
り組み、大きな成果を上げ  
た一年間であつたと総括し  
ています。

本年は、不透明な三位一  
体改革等からの逼迫財政が



懸念されながらも、秋には  
「つくばエクスポレス」の  
開業という記念すべき年で  
もありません。また、市町村  
合併もいよいよ総仕上げと  
なり、県内市町村数も五〇  
を切り、足腰強い自治体誕  
生に期待が大きく膨らみま  
す。九月には本県トップを  
選択する知事選挙も予定さ  
れています。

本クラブでは、あくまで

県民の目線に立つての県政  
推進を基本に、安心・安全  
社会の構築、農産物や商工  
業の振興、少子高齢社会対  
策などに全力を傾けて参り  
ます。

県議会の活性化、そして  
県民と共に歩む自民県政ク  
ラブ、この初心を貫き通し  
て、平成一七年も頑張りま  
すのでご期待下さい。

# 民主清新クラブ



民主清新  
クラブ代表  
長谷川 修平

新年あけましておめでと  
うございます。皆様には、  
それぞれの立場で、希望に  
満ちた新年を迎えたものと  
思われます。

昨年、殺人事件やオレ  
オレ詐欺などの暗いニュー  
スが続いた一方で、アテネ  
オリンピックでは、本県関  
係者が大活躍し、メダルラ  
ッシュとなりました。ま  
た、参院選や市町村合併を

巡る住民投票など、民意が  
問われた年でもあり、多く  
の皆様から心温まるご支援  
をいただきありがとうございます。

さて、私たちは、少子・  
高齢化の対応、健康と安全  
を守る施策、活力ある産業  
社会づくり、陸・海・空の  
交通ネットワークの整備な  
ど県民生活に新しい豊かさ  
を感じる事ができる、つ



よい茨城づくりに取り組ん  
でおります。

しかし、雇用、市町村の  
合併、心身とも健全な子供  
の育成など、様々な問題が  
山積しており、去る一二月  
七日、知事に対し、四〇〇  
項目に及ぶ県政要望を提出  
してきましたが、その施策  
実現にむけて、全力で取り

組んでまいります。

経済の活性化にお  
いて、指針に基づいた  
科学技術関連の施  
策全般の強化や雇用  
については、若年者  
や中高年の離職者  
の就職支援などを推  
進してまいります。

また、安心・安全  
な暮らしを送るた  
め、空き交番の解  
消、食の安全確保、がん対  
策に、高度医療の導入など  
に努めます。

さらに、市町村合併を契  
機とした更なる市町村の権  
限移譲、幼保総合施設な  
ど、人口減少時代の活力維  
持と安心・安全、人材の育  
成をめざし、会派全員で取  
り組んでまいります。

# 公明党



公明党  
茨城県議会  
議員団団長  
足立 寛作

新春を迎え、皆様には、  
晴れやかな日々をお過ごし  
のことと存じます。

今年の干支は酉、限りな  
い可能性、発展性を兼ね  
備えた本県の未来に向かっ  
て、名実ともに飛び立つ  
明るい年にしたいもので  
す。

今年は、六月開催の全国  
植樹祭、秋のつくばエク  
スポレスの開業、それに合  
わせて行われる住まいと暮ら

し博、さらには霞ヶ浦環境  
科学センターのオープンな  
ど、本県の未来を開くさま  
ざまな行事が予定されてい  
ます。

他方、これまで世界に例  
をみない速さで進む少子高  
齢化は、社会の活力の低  
下、社会保障制度の将来へ  
の不安等の問題を引き起こ  
しています。

累積を重ねる県債に象徴  
される危機的な財政状況と

並び、県民にとって大きな  
「不安」材料となっていま  
す。この不安を解消し、將  
来にわたって県民の安心を  
確保するための道筋を明ら  
かにすることが、県政に求  
められた課題だと言わねば  
なりません。

今年は、現在の県長期計  
画の最終年に当たるとも  
に、次の新しい計画を策定  
する節目の年でもありま  
す。私たちは昨年末、平成  
一七年が転換期を迎える重  
要な年ととらえ、知事に対  
し八・四項目からなる予算  
要望をいたしました。

その内容は、地方分権社  
会の確立、少子高齢化対策  
の推進、コミュニティビジ  
ネスの振興等商店街の支  
援、歩いて暮らせるまちづ  
くりなどですが、いずれも

# 日本共産党



日本共産党  
茨城県議会  
議員団団長  
大内 久美子

新しい年を迎え、希望が  
もてる年にするよう、力を  
あわせてまいります。

昨年は、教育や福祉など  
の国庫補助削減、地震や台  
風被害、イラク派兵延長な  
ど、不安が広がりました。

日本共産党は、県民要望  
を聞き、各団体との懇談を  
おこない、一月に予算要  
望書を提出、実現のためと  
りくんできました。

本年は、介護保険の見直  
しの年です。改悪ではな  
く、保険料・利用料の減免  
制度やデイサービスセンタ  
ー、特養ホームの増設など  
改善のためとりくんでいま  
す。

公共事業は、生活道路、  
福祉、教育施設等、生活密  
着型へ転換すべきです。

今年は戦後六〇年。戦争  
放棄を明記した平和憲法を  
守り、生かす年にいたしま  
しょう。



「軍民」共用化、常磐新  
線沿線開発など、国の大型  
開発を受け入れ、財政を苦  
しくさせています。この見  
直しこそ、最優先課題で  
す。

原子力行政では、老朽化  
対策や東海第二発電所での  
プルサーマルを受け入れな  
いよう求めています。

農業県だからこそ、後継  
者への支援、農産物の価格  
保障、地産地消など積極策  
が必要です。「水戸メガモ



生活者の立場に立ち、県民  
の各界各層からの要望・意  
見を集約したものです。  
その一つひとつに丹念に  
取り組み、ゆたかで活力あ  
る県土づくりに、全魂込め  
て努力を続けてまいります。